

日時 平成24年4月27日(金)14:00~16:00
会場 札幌すみれホテル 3階「ヴィオレ」

1 開会・挨拶

【浅村課長】

・開会案内

【石川部長】

・開会挨拶

2 議事

(1) 重点戦略について

【浅村課長】

・資料説明(資料1、参考資料1、参考資料2-1~2-5)

【杉岡】

・一通り全体の流れと前回の論点も整理していただいた。まだ、色々と議論すべき内容が顕在化し、整理の仕方も今後変わってくると思われる。まずは、確認しておきたいところ、もう少し違う観点から議論すべきということなどについて、ご指摘いただき理解を共有しておきたい。

【星野】

・「まちつながるワークショップ」の参加者の年齢層、属性が知りたい。
・戦略ビジョン概要について、ある程度具体的な施策を載せるということがあるが、どの程度のレベルで記載していくことになるのか。

【浅村】

・ワークショップには、20代が10%、30代16%、40代20%、50代17%、60代21%、70代16%ということで、それぞれの年代がバランスよく参加されている。
・施策のレベル感については、総合計画という面からも、事業レベルまで細かく書くことは想定していない。今後起こしていく事業について、何故、という根拠になり得るものであるため、どういう方向での取り組みを進めていくか、イメージを打ち出す必要がある。
・今後、記載内容について、どういう取り組みが想定されるかという事業イメージを連想できるものを用意していきたいが、その内容がすべてビジョンに記載されるわけではないということをご理解いただきたい。

【浅香】

- ・「重点戦略のねらい」に記載されている“支援を必要とする市民も”の部分は“市民が”ではないかと思う。同様に「重点的取組」に記載の“支援を必要とする市民も”の部分は“市民を”ではないか。

【浅村】

- ・社会的包摂という概念を踏まえ、どんな方でも包容していくという意図から、支援を必要とする方は当然のこと、そうでない方もどこかで支えることも視野に入れての表現となっている。
- ・時と場合によって、支援が必要とされる方を地域で包み込んでいくことで皆さんが幸せに暮らせる地域づくりを進めたいという意図を含んでいる。

【梶井】

- ・「歩いて暮らせるまちづくり」というのはこれまでなかった視点のように感じる。面白いキーワードであると思うが、これが出てきた経緯を知りたい。

【浅村】

- ・地域コミュニティ部会の中ではキーワードとして出てきていないが、国の方でも10年来議論されてきているキーワードで、今日的には非常に重要となっている。
- ・郊外住宅地という概念を都市構造の中で位置づけることを意図している。どのように暮らしが成り立っていくかを考えた際の都市の在り方として、機能へのアクセス性、交通等も含めて地域、都市の両面で受け止めていきたいと考えている。

【杉岡】

- ・事務局の説明内容を踏まえ、重点戦略Ⅰを固めていくための議論を進めるために点検していきたい。
- ・資料1の具体的内容を肉付けしていくための論点を共有化しておきたい。これらについて今後、どういうロードマップを描くか、どういう主体が連携していくかを具体化していく必要があると感じている。
- ・委員のそれぞれの領域から見て、今後議論していく柱立てとして全体をカバーできているかどうか、点検しながら議論を集中させていきたい。
- ・重点戦略の狙いとしての3つの柱については、これまでの議論を踏まえて取りまとめたものであると思われる。この部分についてお気づきの点があれば確認していきたい。

【五十嵐】

- ・全般的に言えることとして、きれいに並んでいるのでポイントは整理されているものの、重点を考えるとキーワードを際立たせて良いのではないかと感じている。
- ・形容詞、説明用語は今後の議論として、例えば一つ目の項目として、内容を見ると支え合い、助け合いの仕組みを作るという事は社会的包摂あるいは包容、生活支援等のキーワードに繋がる部分である。どちらがというネットワークからこぼれそうな人たちを地域ですくっていこうという事を明確にすべきだろう。
- ・二つ目の項目は市民自治ということで、誰がやるのかという体制、主体を言っている。その狙いから考えると地域活動への参加の促進と深化を目指すという事で言いきって良いのではないか。

・三つ目の項目については基盤の話であると同時に、何が狙いなのかを考えると、どのように資源を資源として活用していくか、つまり基盤としての位置づけが明確ではないという事になる。ここはもう少し危機感を含めて明記すべきではないかと思っている。

【杉岡】

・シャープに表現してよいのではないかというご指摘だったかと思う。

【梶井】

・五十嵐委員と同様に感じている。同じような言葉が散りばめられている。
・重複しているようでもあり、ポイントが見えづらい。どこを強調したいのかを部会として今後議論しながら整理していくことになるのであろうと思っている。
・各取り組みの①～④の順番が実は非常に重要で、これも考える必要があるだろう。

【福士】

・重点戦略という面から、実際の活動に繋げていくための重点的な項目が分かりやすい形にすべきではないだろうか。

【杉岡】

・“人がまちをつくり、まちが人を育てる”という事のインパクトがもっと明確になるべきだろう。文言が長すぎると、話や狙いがぼやけてしまうだろう。
・これから取り組むというよりは中心的な取り組みのポイントと優先順位を明確にできる記述が必要だろう。
・重点戦略としてのインパクトを如何に与えていくか、また、地域づくりに如何に繋げていくかが分かりやすくなるようにしてはどうか。

【浅香】

・今回の白石の事故の関係から言うと、私たちもよく使う言葉ではあるが、「住み慣れた地域」という言葉の意味がどこまで行けば住み慣れたという事になるのかと感じている。
・自分から住み慣れたというのか、地域から見てその人たちを住み慣れたとみなすのか、そういうところでお互いの助け合う関係が生じることが重要なのだらうと思っている。
・これから札幌市民になる方々に対しての言葉も入れるべきではないか。

【梶井】

・非常に重要なポイントだろう。
・札幌の支店経済を考えると住み慣れていない人でも孤立することなく暮らせるということが大事なのではないだろうか。「誰もが」暮らせることが重要なのだらう。

【杉岡】

・住み慣れた地域に住んでいるという気持ちになるのは、本人がそういう気持ちになれるかどうかポイントだろう。“人がまちをつくる”、そういうまちなのだという事を打ち出すべきだろう。

【五十嵐】

・発想は逆だろう。誰でもその地域に居場所が出来る場にすべきだという事を文言として整理すべきなのではないか。

【杉岡】

- ・「居場所」は定着した言葉でもあり、一人一人の居場所をつくり出せることを考えることが柱になるのではないだろうか。
- ・個人的には、札幌市が人口減少を迎えるといっても、せいぜい5%減程度で、減ること自体はそれほど問題ではないのではないかと感じている。むしろ高齢化の方が問題だろう。
- ・また、女性にとって非常に住みづらい、女性が使い捨てされている地域であるように感じている。安い賃金で働かされ、なかなか活躍できない状況にある。もっと女性の力を引き出せるような取り組み、地域の中で安心して暮らせる基盤づくりを前面に出すことで雇用とも関係し、札幌市の弱点に対する手立てになるのではないか。
- ・弱点を政策的強化に結び付ける展開が望ましいのではないだろうか。そこを含めて重点戦略を考える必要があるだろう。
- ・弱点の克服、居場所の確保、資源の活用の係り結びがポイントになるように感じている。
- ・先ほどの梶井委員の発言にあったように、取り組みの順番は重要だろう。居場所の重要性を考えると、一つ目の項目の安心して暮らせる地域づくりの中で居場所を視点として並び替えることも想定しなければならない。

【五十嵐】

- ・タイトルの方は重点戦略の狙いが整理されるとおのずと出てくるだろう。キーワードとして居場所、自立、ということがターゲットになるのかをこの場で議論する必要がある。
- ・ネットから漏れそうな人を救うということであれば、包摂感を打ち出すことになる。そういう人達が輪に入ってようやく自立という事に結びついてくるだろう。
- ・もう少し、一人一人を大切にしていくことをキーワードにしていくべきではないかと感じている。
- ・見守りも重要だが、戦略という点から物事を考えると、これは地域福祉社会計画に見えてしまう。もう少し一体的に連携が取れるものを前に持ってくるべきで、そう考えると②の方が新しい考え方であり、戦略的な考え方であるう。これがあって、次にどういう手だてがあるかを考えることになるのではないか。

【梶井】

・自分も同様に感じている。最初に戦略的にコミュニティをどうするかという観点を打ち出してから、支え合い、助け合いの豊かさを見せる方がビジョンとしては適切だろう。

【福士】

・基本的には市民がお互いに見守りながら暮らすことになるだろう。トータルに提案することを念頭に置き、それに対する戦略性を見せていくべきではないかと感じている。

【杉岡】

・自分たちのまちを自分たちでつくるという事を前提にすることなのだろうか。

【福土】

- ・札幌市全域ではまだ、そこまでのレベルに達していない。今はまだ関心を高めることが優先される段階であろう。どれだけ関心のある人が集まり、活動し、広げていくかがポイントだろう。

【浅香】

- ・幹としては「住民同士のつながりと支え合い」がポイントになる。孤立を防ぐための民生委員の役割などにソーシャルワーカーなど特定の専門家を入れることについては疑問を感じる。あくまで住民同士のつながり、支え合いが重要だろう。
- ・専門家を入れることで人任せになるという懸念はある。

【五十嵐】

- ・主体は住民であるということは2番目に強調し、一番目は自分で支援にたどり着けない方、声なき困っている方を如何に見つけるかが重要だろう。こういう人達が出てきているというのが現実であり、都市の新しい課題だと思っている。
- ・そう考えると、地域包括支援センターはあるが、地域に密着したソーシャルワーカーはいない。その育成が必要で、一見関わっているが漏れている方が多いという事を認識することが必要だろう。

【星野】

- ・重点戦略の「ねらい」の中で行政の言葉が市民に伝わらないのは長いからだと思っている。
- ・重点戦略に掲げる3つの項目は並列ではなく、段階的に分かれていると理解している。
- ・包摂という事では弱者だけではなく、普通の市民も含まれているはずだが、それが見えていない。
- ・支援についてサービスを提供するが誰が提供するのかが見えないと感じている。今まで機能してこなかった人材を育成することではなく、他の手段が必要なのではないかと思う。買い物弱者についても同様に誰がサポートしていくのかが見えない。

【杉岡】

- ・キーワードの組み立ての時点で異質なものの統合ということではなく、仕組みを考えるとということで、資源基盤をどうするのか。
- ・五十嵐委員は都市の新しい課題に対してどう対応するのかを明確にすべきではないかという事でご指摘されていた。
- ・確かに、キーワードを作り直さないと収まりが悪く、つながりが見えない。地域づくりがバラバラになって、3つに分かれているものの関連もしている。
- ・関連性が見えるような組み換えが必要だと感じている。

【梶井】

- ・その発想で組み替えることでポイントが見えるだろう。このままでは市民には見えづらい。

【石川】

- ・一旦のまとめとして、今も制度としてある仕組み、行政もまちづくりセンターとして関わる、地域活動の担い手、ソーシャルワーカーなどを、新しい社会の中で如何に連携させていくかという社会システムを考えるということが一つの項目のテーマであると理解している。
- ・まちづくりセンターの自主運営化のように地域自らの手で作り上げていくもの、地域ごとに温度差はあるものの、様々な市民活動を展開し繋げていくという横のつながりを生み出すことが二つ目の項目のポイント。
- ・これらの二つをつなぐ環境整備が三つ目の項目のポイントという事で理解している。

【杉岡】

- ・カテゴリーの概念化を行ったうえで、相互の関連が見えるためには主体、ステークホルダーの関わりが見えることが必要だろう。
- ・資源についてもこれまでのものの捉え方、利活用以外に、新しい資源ということもあるだろう。「環境」という言葉では漠然としている。むしろ「資源」と言った方が概念的には近いと感じている。社会的資源の創出という事がポイントになるのではないか。
- ・福祉計画の一部のようにならないように、コミュニティ形成に必要なフレームを位置づける必要があり、個別計画はこの中で位置づけられることになるのだろう。それがなく各部局、民間の関わりが見えてこないと思われる。
- ・そういうことを意識しながら点検する必要がある。そういう意味で、表現、言葉の取り扱いをご指摘いただきたい。
- ・地域の中に出かけ、就労する場という事が重要で、経済部会とは違う観点から居場所と雇用がセットになっていることがコミュニティビジネスとも連動するだろうし、作業所的なものも含めて地域の中で位置づけられることが必要だろう。
- ・社会システムとして居場所を如何にサポートされるべきかという観点もあるだろう。自立を支える仕組みと、居場所となるべき条件、具体的な位置づけを三つ目で行うことになるのだろう。

【五十嵐】

- ・部会長のまとめでよいと思う。
- ・地域の中で雇用する場を生み出すということについて、今ある地域資源の活用と新たな資源の創出という両面が必要で、居場所と関連するが、活躍する場ということが三つ目には必要な観点だろうと思う。

【杉岡】

- ・居場所は単なるサロンではない。地域の中で、ある種の雇用を発生させながら居場所を生み出していくことで、経済部会との関連もシームレスになるだろう。

【梶井】

- ・細かいことだが、二つ目の項目で「多様な」という言葉が目につく。「すべての市民が」という事で、すべての市民が参加し助け合い、支え合うことを骨として位置づけるべきではないかと思う。
- ・子ども、若者、高齢者は出ているが、女性という視点が欠けている。経済部会とのつながりも含め、そういう視点も入れるべきで、そういう意味からも「すべての市民」とすべきではないか。

【杉岡】

- ・子どもの問題は深刻になりつつあり、地域の中で子どもを如何に育てることができるかは重要な課題であろう。
- ・世代間の交流が実質的に動く仕組み、つながりを作るための共生のキーワードが前面に出てくるだろう。そのため
の仕組みも具体化しやすいようにしなければならない。

【福士】

- ・地域づくりの推進という提案があるが、共生型サロンはすでにコミュニティサロンづくりという事で申し込みが増えている状況にある。すでに実施していることもあり、タイトルの整理に留める程度でよいのではないか。

【杉岡】

- ・シンプルな頭出しと例示を含めて分かりやすい打ち出しをすべきだろう。

【梶井】

- ・他の計画では「家族」という言葉がよく出てくるが、ここでは一切出てこない。家族に頼らないで地域に頼る、支え合うという点では非常に良いと自分では思っている。そのスタンスが潜在的に示されているのは良いと思う。

【五十嵐】

- ・子どもは今後ますます重要な視点になるだろうと感じている。子ども、子育て世代という記載はあるが、一人親家庭の子どもの貧困率が非常に高いこともあり、地域に密着したソーシャルワーカーは高齢者ばかりではなく、児童の貧困、まさに自分では支援を求められない子どもを視野に入れることは非常に重要だろうと考えている。
- ・二つ目の項目にある共生型サロンは地域資源ということで考えられ、また、たまり場でもあるので、必要な機能として位置付けるのは賛成である。
- ・二つ目の項目は、主体、体制を強調するという面で女性の視点、仕事を持っている方もどういう形かは分からないが参加できることも読み取れるようにしておく必要があるだろう。

【杉岡】

- ・小松製作所の社長が、地域を支えるために社員にワークライフバランスとして、地域で仕事ができるようにシフトもフレックスにしているという話を聞いた。色々な人が地域の行事や活動に参加しやすい仕組み、働きかけを行うことが必要ではないか。
- ・キャリアパスという観点からも、働きながら勉強する一方で、社会で活動する場が並行してあることで、後半の人生に向かって、より多様な可能性を追求できることもあるので、複数の選択肢を持った生活のスタイルの仕組みを、主体の中でも位置づけていくことが、市民自治の実際的な動きに繋がるのではないか。
- ・今まで前面に出ず、抜け落ちているものをクローズアップしていくことが重要だろう。

【五十嵐】

- ・そういう意味では個人に限らず法人も戦略的に位置づけることが重要なのではないか。農業従事者、商業者も戦略的に位置付ける視点が必要だと感じている。

【梶井】

- ・五十嵐委員の発想は新しいだろう。「コミュニティ」と言った際には、家族に限らず法人も含めてコミュニティの中ですべての人や主体が関わる、役割を担うというのは新しく、位置づけるべきだろう。

【杉岡】

- ・市民の地域社会貢献ということもあれば、法人、団体の貢献活動というくりもあるだろう。そういう意味では、仕事をしながら地域に繋がるということが分かるようにしていきたい。
- ・開かれた機会やサービスを提供していく社会福祉法人など、地域づくりに関わる法人の位置づけは生まれつつある。地域包括ケアも地域全体をフォローしていける法人の動きも想定している。
- ・市のまちづくり条例では法人も位置づけられている。そこも踏まえていくことが重要だろう。

【浅香】

- ・地域コミュニティということで重点戦略の構成については、「人」、「仕組み」、「場」ということで項目を位置づける方が単純明快で、興味のない市民にとっても分かりやすい内容になるのではないかと思う。

【五十嵐】

- ・まちづくりセンターの機能強化は前回も色々話題に出ていた。前回も申し上げたかもしれないが、まちづくりセンターだけが担い手であるようには思えない。
- ・地域ごとにふさわしい所が担っていくことになると理解している。むしろ、まちづくりセンターに限らず、地域のニーズをキャッチできる場の機能を強化することに留め、それがまちづくりセンターであったり、どこかの会館であるのだろう。何が地域にとっての拠点になるのかは、地域に委ねることになるのではないか。
- ・もちろん、行政課題的にまちづくりセンターの機能強化はあっても良い。まちづくり全体の戦略としては特定の場ではなく、どういう機能が必要になるのかを明記すべきではないか。

【杉岡】

- ・まちづくりセンターの話は、全国各地の動きを見る中では、小学校区単位に住民の拠り所が必要でそこが寄り付きやすい集箱のようなものではないかと思っている。
- ・拠点という意味でのまちづくりセンターと、マネジメントのための強化という話を混同すべきではないだろう。歩いて暮らせるまちづくりを考える際には拠点となる場を張り巡らせておき、誰もが問題を持ち込みやすい状況を作る必要がある。
- ・今は困っていても相談先が分からないことで、つながらないまま暮らしているという状況を生み出している。それが地域の目に見えることが重要だろう。

【五十嵐】

- ・正直、自分としてまちづくりセンターにおいて何を行政的に狙っているのか理解し切れていない。まちづくりセンターの果たす役割の現状をお話いただきたい。

【石川】

- ・まちづくりセンターは、何かの実行部隊であるというよりは、組織としては市の課長職と非常勤職員2名だけの体制であり、そこを連合町内会が活動拠点としていることもあって、町内会活動をされている多くの方の情報が集まりそれを連携させる役割が主たるものとなっている。
- ・一方で、市民自治を高次元にするために、福士委員のところのように、まちづくりセンター所長を地域リーダーが担うという自主運営化も進められている。
- ・人的な組織が構築されているわけではなく、地域で活動する町内会、福祉系の活動主体、地域活動を担う市民団体が緩やかであっても連携できる場として考えている。

【杉岡】

- ・様々な団体が集まって何かを連携するという状態はつくり得ていない。結局は町内会関係者しか来ない事務所的な場にしかなくていいという問題はある。
- ・まちづくりセンターと言うからには、地域のまちづくりをフォローできる機能や施設のしつらえ、人的な配置を備える必要がある。
- ・北九州市では、小学校区単位にある「市民センター」を公民館的な機能として、貸し館、イベント、図書館的機能などを備え、地域の一大拠点となっている。
- ・今までのまちづくりセンターを充実させていくというよりは、新しい形で、地域のまちづくりを支える拠点としての位置づけを明確にすることで人材の貼り付け、連携の在り方も明確になるのではないだろうか。

【星野】

- ・地域活性化を担う人材が自然発生する地域は良いが、そうでない地域があることが問題だろう。
- ・まちづくりセンターの機能強化といっても、何がニーズとしてどういう場が求められているかを分析する必要があるのではないだろうか。

【福士】

- ・まちづくりセンターの自主運営については、地域のことは地域が一番よく分かっているため、ポイントは地域がやろうという気になるかどうかにかかっている。
- ・専門部ができることで自主運営が進むことがメリットだろう。将来的には地域を支えるセンターの職員は集まるだろうと思っている。優秀な職員は募集をかければ集まり、これが雇用にもつながるのではないか。
- ・こうすることで地域に対する理解度が深まるのではないかと思う。

【杉岡】

- ・重点戦略の内容としてコンパクトに事柄を位置づけ、それぞれのカテゴリーごとに配置、内容の整合が必要だろうと感じている。
- ・具体的な事柄にどうつながるのが見えることが必要であろう。
- ・メッセージとして端的に伝わる内容にすることに努めてほしい。

以上